

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 044	提案機関名 みうら漁業協同組合
要望問題名 干潟域での二枚貝養殖手法の導入試験研究について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 当地区では、従来取り組んできた冬期の海藻養殖が不振であることから、それに代わるものとしてマガキの養殖に取り組んでいます。 現在 11 名の組合員が参加して、小網代湾内に設置した筏からマガキ種苗を入れた籠を吊るして養殖していますが、吊るせる籠の数や強風時の作業の安全確保に課題があると感じています。 豪州などでは浅瀬に支柱を立てて架線し、そこに養殖籠を取り付けるやり方をしているようです。この方法であれば、多少の荒天でも作業は可能ですし、籠の数も増やせると思います。また、これで育った牡蠣は形も身入りも良いようです。 小網代湾には湾の奥に干潟や浅瀬があります。漁場としての利用はほぼありませんし、漁港区域内ですが舟船の往来や停泊もなく、養殖に使えらると思います。さらに、この地域をモデルとして他の地域へ広めていくこともできます。 二枚貝養殖の新しい方法について、その効果や当地域での適否などを検証する試験研究を実施し、漁業者が行う養殖の取り組みにご支援をお願いします。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	ご要望の養殖方法はロングライン方式と呼ばれており、その導入の可否を検討するため、当該地域の漁業者が実地試験を実施する場合には、作業性や生産物について筏式養殖との比較等、導入に向けての検討に対し助言してまいります。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考			